

光緒通寶・千字文 宝泉局四廠の簡易分類・その三 南廠

南廠は面文が尔寶・コ頭重点通・八貝足になっている。コ頭通なので簡単に分類できる。各廠の最後に掲載している細縁小型の千字文銭を故・埜史郎氏は当初私鑄銭と解説、次の清朝銭基本分類資料集では、光緒三年鑄銭の六分銭（二・二八グラム）と解説し、宣統通寶に書体が似ている事から宣統手と呼ばれている。現存のものはもう少し軽い。四廠に存在しているが、現存数は少なく、全体像はつかめていない。

一八 宝泉南廠・列
面文は同書でコ頭重点通である。背穿上に「列」字を置く。清朝銭を磨くと、このように光るので磨かない方がよい。

一五 宝泉南廠・宇
面文は尔寶・コ頭重点通・八貝足である。背穿上に「宇」字を置く。毛の最終画が斜め下に降りる。製作は良い。

21.16mm-3.22g
30/1045



一九 宝泉南廠・来
面文は同書、背穿上に「来」字を置く。千字文全体の中でも「来」字は製作良好で美銭が多い。背満文が大きく見える。

20.69mm-3.08g
38/1045



一六 宝泉南廠・宙
面文は同書、背穿上に「宙」字を置く。面背共に反郭になる。光字と通字の間に、大きな切跡が残っている。

20.56mm-2.86g
23/1045



二〇 宝泉南廠・往
通毛の最終画が反つて湾曲している。背穿上に「往」字を置くが、稍小字である。南廠の中では二番目に少ない。

20.71mm-3.78g
29/1045



一七 宝泉南廠・日
面文は同書で、潤縁気味である。背穿上に「日」字を置く。銭文は面背共に小字である。「日」字が一番変化に富んでいる。

20.82mm-3.07g
18/1045



二一 宝泉南廠・往
小型細縁の背穿上に「往」字を置く。小さいが製作良好で民鑄銭には見えない。埜氏は宣統手と呼び、制銭とされている。

18.62mm-2.47g



20.74mm-2.93g
39/1045



光緒通寶・千字文 宝泉局四廠の簡易分類・その四 北廠

宝泉局・北廠は尔寶・マ頭重点通・寶八貝足・背出頭寶である。北廠は背出頭寶なので簡単に鑑別できる。通字・疋チツの最終画が斜め右下に降りる。北廠は宝泉局・一、〇四五枚中、二六三枚（約二五パーセント）である。清朝銭の背出頭寶は不思議と、収集家に好かれている。読者諸兄に収集機会があるか不明だが、読み物として、見ていただくだけでも嬉しい。最終的に、細縁小型の軽量銭は先師に従い制銭とするが、判断は難しい。

二二 宝泉北廠・宇

満文寶字が出頭している。背穿上に「宇」字を置く。面寶字・貝画の二引き右側が縦画から離れる。切貝と呼ばれている。

21.47mm-3.06g
29/1045



二三 宝泉北廠・宙

背満文が出頭寶になる。背線上に「宙」字を置く。真鍮質の色が良く出ている。清朝銭は磨くと余計に光り、品格が落ちるので磨かないで欲しい。

20.83mm-3.25g
20/1045



二四 宝泉北廠・日

背出頭寶である。背穿上に「日」字を置く。銭文が小字で「日」字も細く小さい。北廠は大体、三グラムを超えるものが多い。

20.67mm-3.11g
41/1045



二五 宝泉北廠・列

やはり背出頭寶なので鑑別は簡単である。背穿上に「列」字を置く。二〇ミリを超えるのに小さく見えるが、規定重量。

二六 宝泉北廠・来

背出頭寶で、背穿上に「来」字を置く。面寶字貝画の二引きが横の縦画に接する。不接貝とよばれ普通は切貝の方が多し。

21.46mm-3.12g
43/1045



二七 宝泉北廠・往

背出頭寶で背穿上に「往」字を置く。これも前掲と同じく寶字貝画は不切貝。寶字には切貝と不切貝の二種類が存在する。

20.64mm-3.42g
84/1045



二八 宝泉北廠・日

背出頭寶で、穿上に「日」字を置く。特に小型軽量で制銭とは思えず、民鑄銭と推測する異質のものである。製作は良い。

16.60mm-1.51g



20.60mm-3.34g
46/1045

